



年頭にあたって

代表理事組合長 高橋 秀樹

平成30年の新春を迎え、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

組合員の皆様におかれましては、御家族お揃いで、共に輝かしい新年をお迎えの事と心からお慶び申し上げます。

また、日頃より農協事業運営に対しまして特段の御理解と御支援、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

去年の営農を振り返ってみますと、春から初夏にかけては天候に恵まれ、作物の生育も順調に進みました。収穫期に入りますと、一番牧草、小麦、馬鈴薯等順調に収穫が進みましたが、その後台風18号や度重なる降雨など天候不順の中での作業となり、農作物の品質や収量の低下が心配されましたが、お陰様で全ての作物で平年作又はそれ以上の収量を上げる事が出来ました。これも偏に組合員の皆様方の日頃の営農努力の賜物と深く敬意を表す次第であります。29年度の農協事業も順調に進み、11月末現在の仮決算では計画以上の状況となっております。事業年度も残すところあと2ヶ月あまりとなりましたが、更に鋭意努力して参りますので、組合員の皆様の引続きの御協力をお願い致します。

農業を取り巻く情勢は、米国を除く11ヵ国によるTPP新協定が昨年大筋合意し、日本と欧州連合のEPA協定も12月に最終合意致しました。一方、去年の日米首脳会談で議題には上がらなかったものの、アメリカとの二国間交渉（FTA）は、今後厳しい要求になるのではと懸念致しております。国内では畜産経営安定法が改正され、生乳の補給金交付対象が拡大されました。また規制改革推進会議では、卸売市場の改革も進めており、私達を取り巻く国内外の環境が大きく変化しようとしています。今後これらの情勢を注視するとともに、我々農業者が先行き不安にならぬよう継続可能な農業の確立に向け、政府には万全な対応を図って頂きたく願うところであります。また我々役職員も一丸となって、今後更に目まぐるしく変化する農政に素早く対応し、組合員の所得向上を基本に置き、「信頼・利用・満足されるJA」の経営理念を基に、平成30年度の事業を進めて参る所存であります。

今年も天候に恵まれ、災害も無く、豊穰の秋を迎える事が出来ます様、併せて組合員と御家族の皆様の御健勝と御多幸を心より御祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



新年を迎えて

札幌農業協同組合 代表監事

組合員の皆様、新年あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのことと思います。

平成29年を振り返りますと、雪解けも早く4月中旬の降雪などありましたが、春耕期の作業も順調に進みました。しかし、7月上旬には37度以上の高温になり、作物への影響が心配されました。8月以降も天候に恵まれ収穫作業も順調に進みましたが、9月中旬以降定期的に天候が変わり、小麦の播種、芋、ビートの収穫に影響が生じました。

作物別に見ますと、小麦に於いては平成28年の播種の遅れが心配されましたが、開花期の天候もよく7月の高温の影響もなく、粗麦で11俵、製品数量で10俵と27年と変わらない大豊作となりました。ビートに於きましても過去にないような収量となりそうです。この傾向は、芋類、蔬菜も同様で今後の有利販売に期待します。

酪農、畜産では、飼料高の中、一部の酪農家の離脱、28年産の牧草の影響などで生乳の生産量の計画達成は難しい状態です。近年高止まりの家畜消流も下がり傾向です。しかし、全体を見れば豊作の一年でありました。

農業情勢は農業者の高齢化や担い手不足など農業の構造変化の中、農地制度改革、米国のTPP離脱、他国との経済連携協定など、今後の動きに注目していきたいと思います。

農協の運営では第8次の中長期計画の初年度となりました。事務所建て替えでは、建築準備委員会を中心に進んでいるようです。

また、JAグループ北海道に於いては第28回JA北海道大会の決議のもと実践フォーラムが開催され、担い手倍増、550万人サポーター作りなど有識者パネル討議が行われました。

この様に豊作の中、農協の事業も計画以上に推移しています。監事会として監査業務を通して経営全般の強化に取り組んでいきたいと考えておりますので、組合員各位におかれましては引き続き、ご協力をよろしくお願い致します。

本年も災害がなく、豊穰の出来秋を迎えることが出来ます様、心より祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



年頭にあたり

北海道農業協同組合 中央会会長

組合員並びに J A 役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成 30 年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先は晴れの日が多く、気温も高かったことから農作業・生育も順調でありました。9 月中旬以降は、雨の日が多く収穫作業に遅れが発生し、特に 9 月 18 日の台風 18 号によって、全道的にデントコーン・水稻の倒伏、農業施設の損壊などにより、農作物の品質、収量に懸念が生じたところでした。

しかしながら、結果的には、米は、作況指数が 103 の「やや良」、小麦・てん菜は、収量・品質とも平年作、生乳は、全般的に安定基調と組合員の皆様の努力の成果が報われた 1 年となりました。

平成 28 年 9 月に 4 つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生し、その傷も完全に癒えない中ではありますが、昨年元旦に新聞紙上で意見広告を行った『それでも種をまく』という農民魂のもと、J A グループ北海道は着実に前を向いて歩んで参ります。

一方、国際貿易交渉の状況は、TPP 11、日 EU・EPA、米国との貿易交渉など、その進展状況と合意内容、農業経営への影響など生産現場に十分伝わっていないこともあり、将来への不安を抱え、担い手の生産意欲の減退が懸念されるどころです。

農協改革、規制改革では、生産資材価格の引き下げと見える化、牛乳・乳製品の生産・流通においては、新たな加工原料乳生産者補給金制度を盛り込んだ改正畜産経営安定法が成立するなど農業政策対応に追われた 1 年でありました。

J A グループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、J A 経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、J A グループ北海道は、第 28 回 J A 北海道大会のメインテーマである「北海道 550 万人と共に創る 力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図っているところであり本年はその総括年度となります。

昨年は J A グループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、J A グループ内外に実践状況を発信すべく、新規担い手倍増と 550 万人サポーターづくり・准組合員制度をテーマに J A 北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、J Aグループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩いていくJ Aグループ北海道を目指して参ります。関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

結びになりますが、今年の干支は戊戌（つちのえいぬ）です。一説には、戊は「茂」に通じる意味があり、植物の成長が絶頂期にある状態を表しているとのことであります。

今年は、この戌年にあやかり、天候に恵まれ実り多い豊穰の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。



新年のご挨拶

札内農業協同組合 青年部長

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、日頃より青年部活動に対しましてご理解、ご支援、ご協力を頂いております組合員の皆様、農協役職員の皆様には改めて感謝申し上げます。

昨年の農作物生育状況を振り返りますと、好天に恵まれた日が多く、例年悩まされていた天候不良の影響が少なく、豊作の年となったのではないのでしょうか。

7月に青年部活動の一環として毎年実施しているパークゴルフ大会を行いました。一昨年の雨で中止となった日とは打って変わり、快晴の中、無事開催することができました。多くの方々にご参加いただき、盛大のうちに終えることができ、大変嬉しく思っております。

10月、11月には、幕別町教育委員会と協力し実施している食育事業を札内南小学校、札内北小学校の3年生147名を対象に行いました。収穫を体験している児童たちからは「楽しい!」「もっとやりたい!」等の声も聞かれ、食と農業へ関心を持ってもらえたのかなと感じました。後日、児童たちからたくさんのお礼の手紙が届き「こういった地域に貢献する活動は必要不可欠なんだな」と改めて実感しました。今後、次の世代を担う青年部員として、何が出来るのか部員全員で話し合い、青年部の役割の大切さを考え、地域農業の振興と魅力ある青年部活動を行っていきたいと考えております。

さて、昨年は青年部へ新たに4名の入部がありました。非常に喜ばしいことでございます。しかし、部員数は毎年減少の一途をたどっている次第であります。このまま減少が進めば、そう遠くないうちに間違いなく活動に支障をきたすでしょう。現在の定年は35歳ですが、定年の上限引き上げ、または年齢制限の撤廃等の規約改正も考えていかなければならない状況ではないのでしょうか。我々が青年部の今後を左右する、極めて重要な案件です。是非皆さんのご意見をお聞かせ願いたいと思います。

最後に、本年も変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げますとともに、部員各位、そして組合員の皆様の今年一年のご健康とご多幸を祈念し、年頭の挨拶と致します。



新年のご挨拶

礼内農業協同組合 女性部長

女性部員、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年を迎えられた事と思います。平成29年度も、事業計画に基づき女性部員の方々のご協力の下に進める事が出来ました。

第1回目の事業として6月28日、依田パークゴルフ場にて下部組織合同パークゴルフ大会を開催いたしました。良い天候に恵まれて26名の方々と親交を深めました。ホールインワンが出たり、珍プレーがあったりと賑やかな声が聞かれました。その後、焼肉ガーデンで食事をしながら楽しい時間を過ごしました。順位発表では、高橋組合長が1位のスコアを出しました。

7月10日には、富良野方面に9名の方の参加で1日研修会に行ってきました。チーズ工房、ワイン工場、ファーム富田等を見学し、昼食にはご当地グルメのオムカレーを頂き、きれいな花々も見られたりして皆さんと楽しさを共有しました。

8月9日には、11名の参加を頂き、江戸時代から伝わる技法で髪飾りやアクセサリーを作る「つまみ細工」を経験しました。つまみ細工をされている部員の方に指導して頂き、皆さん悪戦苦闘しながら小さな布を折り畳んでパーツを作り、花の形に置いていく作業をしてブローチが出来上がりました。昔も今も飾る事を大切に思う気持ちは変わらないと感じました。

12月4日から7日に大阪方面に参加者7名、事務局1名で行ってきました。宝塚観劇、大阪城、よしもと新喜劇、産直オーガニックを見学しました。

さて、去年は4名の方が新規就農され、激励会で若い皆さんの力強い抱負を聞くことができました。

また、去年の農作物を振り返りますと、近年にはない豊作だったと思います。しかし、災害にみまわれて大変な思いをされた方もいらっしゃると思います。気象も温暖化の影響でどんな災害に遭うか分からなくなってきました。その時その時の精一杯をやって自然現象を受け入れて、自然の恵みを沢山収穫出来る事を願うところです。女性部全体で横の繋がりを大切にして、部員の方々と楽しみや苦しみも共有しながらやっていけたらと思います。

さて、私事ではありますが、去年実家の土地の売買を当JAにお願いして買い手の方と応接室で契約の手続きをしていた時、私は窓側に座っており、隙間風がすうっと入ってきたのを感じて「事務所も築後何年も経っているので仕方ないなあ」と感じておりました。

現実的に新事務所の計画が進行していて大変ご苦労かと思いますが、益々当JAが活気に満ちるのではないかと期待しております。

最後になりましたが、今後も女性部活動にご指導ご協力をお願い申し上げます。

本年も組合員皆様のご健康とご多幸を祈念し、簡単ではございますが、新年のご挨拶とさせていただきます。

青年部 幕別町町立学校食育推進事業



11月8日、当農協青年部による食育推進事業が開催されました。

今回は、札内北小学校3年生2クラス46名を対象に実施され、農場で長芋掘りと青空授業が行われました。

長芋掘りでは、班ごとに分かれた生徒に青年部員が付き、収穫する長芋を傷つけないよう丁寧に教えていました。デリケートな長芋掘りに「難しい」と生徒達は苦戦していましたが、みんなで大きな長芋を掘り当てると「やったー、採れたー！」と笑顔で喜ぶ姿がみられました。

また青空授業では、長芋に関する授業を行い、授業内で説明した長芋のポール立てを、クラスの全員が実際に体験しました。ポール立てを全て手作業で行うことを知った生徒達は「すごい！」と声に出して驚いていました。その後の授業も熱心に聞き、授業後に生徒が質問をするなど充実した授業となりました。

今年度の食育事業は、過去最大規模の140名以上の生徒を対象に行われました。無事、怪我なく、大成功の内に終了いたしました。

JA 十勝青年部大会

11月27日、日航ノースランドにてJA十勝青年部大会が開催されました。当農協からは7名の部員が参加し、『紡ぐ～豊かな農を守り未来へ～』という大会テーマのもと、他の単組との交流や意見交換を行いました。

「JA青年部活動実績発表大会」では、6単組の代表が発表を行い、JA青年部組織の強化と活動活性化について、他の模範となり今後の発展性が期待される事例や、地域内農業およびJA活動への具体的な成果をあげる事例が取り上げられました。部員一同、他の単組で行われている青年部活動に興味津々な面持ちで話を聞いていました。



女性部友の会 料理講習会

女性部友の会の料理講習会が12月4日に幕別町百年記念ホールで行われました。毎年この時期に行われている料理講習会は、「地域牛乳・乳製品需要拡大事業」に基づき実施されており、全品に牛乳・乳製品が使われています。

今回のメニューは「牛乳プリン」と「鮭とホタテのクリームスープ」の2品でした。皆さん普段から料理をしていることもあり、作業を分担し、スムーズに料理をしていました。

また、作業中に笑い声が聞こえるなど和気あいあいとした中で料理講習会が行われていました。

完成した2品は、味・出来栄え共にとても素晴らしいもので、皆さん大満足で料理講習会を終えました。



女性部友の会 冬期研修

1月24・25日に1泊2日の日程で女性部友の会の冬期研修が札幌にて開催されました。

今年の冬期研修は、9年ぶりに一泊することになり、多くの会員の方に参加していただきましたが、どうしても泊まることできない会員もいるため、日帰り組、宿泊組の2班での研修となりました。

赤レンガ庁舎・時計台・アサヒビール工場と、知っているけど行ったことがない観光スポットを回り、とても慌ただしい弾丸研修となりましたが、参加した皆様は、「普段体験できない多くの事を体験できた2日間だった」と大満足の研修となりました。



女性部 道外視察研修旅行

12月4日～7日に掛けて当農協女性部の道外視察研修旅行が関西方面にて開催されました。

研修旅行初日、関西地方は雨でしたが、神戸港のディナークルーズの時間には船の上に月も出て素晴らしい夜景を見ながらのディナーに部員一同舌鼓を打ちました。

2日目、皆元気に大阪へ移動し、宝塚大劇場で夢のような煌びやかな舞台を観劇しました。その後、大阪城に移動しました。この日、関西は今年一番の寒さで「北海道と変わらない」との声が出るなど震えながらの見学となりました。

3日目、よしもと新喜劇でお笑いを堪能しました。その後、日本一高いビルのあべのハルカスへ移動し、自由行動になりました。集合時間に誰一人遅れることなく女性部の団結力には感心いたしました。その後は、なにわのエッフェル塔と呼ばれる通天閣で塔の上まで登り、ビリケンさんの足裏を撫で御利益を頂きホテルへ戻りました。



最終日、帰路につく前に訪れた海遊館では、巨大水槽などで3万種類の生き物を展示しており、サメの肌を直接触れるコーナーやジンベイザメのお食事タイムなど普段見る事の出来ない海の生き物の生態を見ることが出来ました。

3泊4日の日程で行われた今回の研修旅行でしたが、怪我や体調不良もなく、皆さん両手いっぱいのお土産を抱えて笑顔で帰路につけましたことを心より感謝しております。

J A北海道大会 実践フォーラム

11月21日、札幌市教育文化会館にて「J A北海道大会実践フォーラム」が開催されました。

今回のフォーラムでは、J Aグループ北海道の「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』」の理念のもと、「協同の力で農業所得20%増大と新規担い手倍増を実現」・「食と農を通じて北海道550万人とつながりを実現」という基本目標と実践方策



に、組合員・J A・連合会・中央会がそれぞれの役割と重点的に取り組む内容を再確認しました。

又、J AけねべつとJ Aひがしかわの事例をパネルディスカッションにて発表し、パネリストの方々からは大会決議の実践に向けて、多くのアドバイスを頂きました。

今後も実践フォーラムを通じてJ Aグループ内外に実践状況を発信していきます。